

平成24年度採択プログラム 事後評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	熊本大学	整理番号	I02
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) はらだ しんじ 氏名・職名 原田 信志 (熊本大学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) あんどう ゆきお 氏名・職名 安東 由喜雄 (大学院医学教育部・医学専攻・教授) (平成29年4月1日変更)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) おぐら てる 氏名・職名 小椋 光 (大学院医学教育部・医学専攻・教授)		
4. 類型	I <複合領域型(生命健康)>		
5.	プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO	
	英語名称	HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) Program	
	副題	健康生命科学パイオニアHLSP (Health Life Science Pioneer) の養成	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(健康生命科学)、博士(医学)、博士(生命科学)、博士(薬学)、博士(薬科学)		
7. 主要分科	(① 基礎医学 ) (② 薬学 ) (③ 政治学 ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	神経科学一般、生理学一般、医化学一般、病態医化学、人体病理学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、創薬化学、医療系薬学、代謝学、内科学一般、免疫学、小児科学、人類遺伝学、公衆衛生学・健康科学、腫瘍生物学、発がん、ゲノム医科学、哲学・倫理学、外国語教育、政治学、経済政策、経営学、社会学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医学教育部医科学専攻(修士課程)、医学教育部医学専攻(博士課程)、薬学教育部博士前期課程 創薬・生命薬科学専攻、薬学教育部博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻、薬学教育部博士課程 医療薬学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	熊本県、熊本市、同仁化学研究所(株)、熊本日日新聞社、熊本商工会議所、熊本経済同友会、九州地域バイオクラスター推進協議会		

14. プログラム担当者の構成 計 41 名					
外国人の人数	2 人	[ 4.9 %]	女性の人数	7 人	[ 17.1 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 78.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			32 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			28 人	そのうち、大学等以外に属する者	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
(プログラム責任者) 安東 由喜雄 (H29.4.1変更)	アンドウ ユキオ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	統括責任者
(プログラムコーディネーター) 小椋 光	オガラ ヒル		大学院医学教育部・医学専攻・教授	理学博士	プログラムの企画・運営の総括
竹屋 元裕	タケヤ モトヒロ		理事・副学長	医学博士	プログラムの点検・改善
中尾 光善	ナカオ ミツヨシ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 産業界連携
富澤 一仁	トミザワ カズヒト		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	プログラム・カリキュラムの編成・点検・改善
大塚 雅巳	オツカ マサミ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	行政・企業インターンシップ
甲斐 広文	カイヒロフミ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	海外コーディネート、創薬研究指導
上野 眞也	ウエノ シンヤ		熊本創生推進機構 政策創造研究教育センター・教授	博士(公共政策学)	公共政策教育 行政コーディネート
西中村 隆一	ニシナカムラ リュウイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの点検・改善 行政連携 広報
小川 峰太郎	オガワ ミネタロウ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(薬学)	プログラムの点検・改善、カリキュラムの編成・運営
宋 文杰	ソウ ブンケツ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	工学博士	カリキュラムの編成・評価 国際連携 広報
太田 訓正	オオタ ケニマサ		大学院医学教育部・医学専攻・准教授	博士(理学)	プログラム・カリキュラムの点検・改善、国際連携
荒木 栄一	アラキ エイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携
山縣 和也	ヤマガタ カズヤ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 留学生支援
加藤 貴彦	カトウ タカヒコ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 産業界連携
尾池 雄一	オイケ ユウイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	産業界連携
西谷 陽子	ニシタニ ヨウコ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	行政連携
入江 徹美	イリエ テツミ		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	行政インターンシップ、臨床研究指導 薬学専門講義
有馬 英俊	アリマ ヒデトシ		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	海外・企業インターンシップ、創薬研究指導 薬学基礎講義
丸山 徹	マルヤマ トオル		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	企業インターンシップ、創薬・臨床研究指導 薬学専門講義
今井 輝子	イマイ テルコ		薬学部・特任教授	薬学博士	産業界連携
大槻 純男 (H29.4.1追加)	オツキ スミオ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	博士(薬学)	産業界連携
石原 明子	イシハラ アキコ		大学院社会文化科学研究科・准教授	文学修士	公共政策教育
河村 洋子	カムラ ヨウコ		静岡文化芸術大学・准教授	博士(健康教育及びヘルスプロモーション)	社会文化科学教育
高橋 隆雄	タカハシ タカオ		大学院先導機構・客員教授、名誉教授	博士(文学)	社会文化科学教育のコーディネート
小野 友道	オノ トモミチ		熊本大学顧問・名誉教授 九州地域バイオクラスター推進協議会会長	医学博士	医療行政教育 行政インターンシップ

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
久恒 昭哲	ヒサツネ アキリ		大学院先導機構・特任准教授	博士(薬学)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
梅田 香穂子	ウメダ カホコ		大学院先導機構・特任助教	博士(医学)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
Hari Prasad DEVKOTA	ハリ プラサデー デブコタ		大学院先導機構・特任助教	博士(薬学)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
大浦 華代子	オオウラ カホコ		大学院先導機構・特任助教	博士(薬学)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
田辺 寿一郎	タナベ ジュイロウ		大学院先導機構・特任助教	博士(平和学)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
佐々木 葉月 (H29.6.1追加)	ササキ ハツキ		大学院先導機構・特任助教	博士(国際公共政策)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
伊藤 尚文 (H29.8.1追加)	イトウ ナオミ		大学院先導機構・特任助教	博士(生命科学)	行政・企業・海外インターンシップ 行政・企業セミナー
桑 昭苑	クメ ショウエン		東京工業大学・教授	博士(理学)	プログラム運営に関する助言・支援
蒲島 郁夫	カハシマ イクオ		熊本県・知事	政治経済博士	政治学教育 行政インターンシップ
大西 一史	オオニシ カズミ		熊本市・市長	修士(法学)	政治・行政教育 行政インターンシップ
幸山 政史	コウヤマ セイシ		前熊本市長	経済学士	政治・行政教育
田川 憲生	タカワ ケンセイ		熊本商工会議所・会頭(ホテル日航熊本・会長)	文学士	政治学・経済学教育 企業インターンシップ
甲斐 隆博	カイ リュウヒロ		熊本経済同友会代表幹事(肥後銀行頭取)	商学士	政治学・経済学教育 企業インターンシップ
井芹 道一	イセリ ミチカズ		熊本日日新聞社・編集委員	教育学士	地方紙ジャーナリズムについての講義 企業インターンシップ
佐々本 一美	ササモト カズミ		株式会社同仁化学研究所・技術顧問	薬学博士	企業セミナー

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 * (今後の募集予定: 有 無)	
プログラム募集定員数	20	20	20	20	18	12	3	
① 応募 学生 数	12	17	23	32	18	16	4	
	うち留学生数	2	9	17	16	12	5	
	うち自大学出身者数	5 (0)	8 (0)	3 (0)	14 (0)	6 (1)	8 (1)	2 (0)
	うち他大学出身者数	7 (2)	9 (9)	20 (17)	18 (16)	12 (11)	8 (4)	2 (2)
	うち社会人学生数	3 (1)	9 (7)	11 (11)	13 (13)	6 (5)	3 (2)	1 (1)
	うち女性数	4 (1)	2 (2)	10 (7)	12 (5)	6 (5)	4 (2)	0 (0)
② 合格 者数	9	12	13	24	12	12	3	
	うち留学生数	2	7	9	10	8	5	1
	うち自大学出身者数	5 (0)	5 (0)	2 (0)	13 (0)	4 (1)	5 (0)	2 (0)
	うち他大学出身者数	4 (2)	7 (7)	11 (9)	11 (10)	8 (7)	7 (5)	1 (1)
	うち社会人学生数	2 (1)	7 (7)	7 (7)	9 (9)	3 (3)	3 (2)	1 (1)
	うち女性数	4 (1)	2 (2)	6 (3)	11 (4)	5 (4)	4 (2)	0 (0)
③ ②の うち 履修 生数	9	11	11	20	12	12	3	
	うち留学生数	2	6	7	7	8	5	1
	うち自大学出身者数	5 (0)	5 (0)	2 (0)	12 (0)	4 (1)	5 (0)	2 (0)
	うち他大学出身者数	4 (2)	6 (6)	9 (7)	8 (7)	8 (7)	7 (5)	1 (1)
	うち社会人学生数	2 (1)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	3 (2)	1 (1)
	うち女性数	4 (1)	1 (1)	6 (3)	9 (2)	5 (4)	4 (2)	0 (0)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.33倍	1.42倍	1.77倍	1.33倍	1.50倍	1.33倍	1.33倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	45%	60%	65%	120%	67%	100%	100%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成30年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成30年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。



17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数  
 ②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

[公表(備考欄を除く)]  
 (各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

プログラムの履修生数等	履修生数 (選抜年度内辞退は除く。)					平成24年度 (H25.3.31)					平成25年度 (H26.3.31)					平成26年度 (H27.3.31)					平成27年度 (H28.3.31)					平成28年度 (H29.3.31)					平成29年度 (H30.3.31)					平成30年度 (提出日(H30.6))					H31.3.31 (見込)		(見込 合計)	(見込 辞退 合計)
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退							
平成24年度選抜	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平成25年度選抜	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち留学生数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平成26年度選抜	8	0	0	0	8	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち留学生数	6	0	0	0	6	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	8	0	0	0	8	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	6	0	0	0	6	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平成27年度選抜	12	0	0	0	12	12	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち留学生数	7	0	0	0	7	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	8	0	0	0	8	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	6	0	0	0	6	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平成28年度選抜	7	1	0	0	8	7	1	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち留学生数	6	1	0	0	7	6	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	6	1	0	0	7	6	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平成29年度選抜	8	0	0	0	8	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち留学生数	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	6	0	0	0	6	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
平成30年度選抜	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち留学生数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち他大学出身者数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち社会人学生数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
計	44	1	0	0	45	4	0	0	0	4	3	4	0	0	7	10	3	4	0	17	14	9	3	4	30	7	15	9	3	34	10	8	13	10	41	3	9	8	14	34	28	3	17	1
うち留学生数					28																																							
うち自大学出身者数					11																																							
うち他大学出身者数																																												

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### 【プログラムの概要】「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」

人類の健康増進に繋がる生命科学が急速に展開し、専門化・細分化されていることから、その成果を社会全体に分かりやすく波及することが重要である。「HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラム」は、医学・薬学等を基盤とする健康生命科学の専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観（主にアジア）を連結した国際・地域社会（グローバル社会）における課題とニーズを捉えて、健康増進と疾病対策のために最新の知見と科学技術を活用する次代の医療人・専門職業人を養成する。医学・薬学・生命科学等から要点を抽出・集約して「健康生命科学パイオニア HLSP (Health Life Science Pioneer)」コースを新設し、これらの専門的な理解に加えて、人と社会と自然に関する総合的な知識や情報を積極的に習得することで、真に世界に貢献できる学識と応用能力を獲得する。とりわけ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となった「グローバル社会文化科学 GSCS (Glocal Social and Culture Science)」を通して、アジアと九州、歴史と文化、政治・経済・社会と生命倫理などを理解し、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。この有機的に統合した斬新な大学院コースを設置し、国際的・地際的・学際的な視野と思考力に基づき、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動・解決できるグローバル社会リーダーHLSPの輩出を実現するものである。

### 【特色】 1. グローバル社会への貢献を目指した大学・行政・産業界の連携

従来の理系大学院人材は、高い専門性と欧米指向のため、地域社会やアジアに対する意識が希薄になりがちであった。しかし、科学技術が進歩する現代社会にこそ、総合的な知識と合理的判断力をもつ理系人材が不可欠である。ここで若い世代がリーダーとして活躍するには、地域や世界の人々と協働して、課題解決に自在に挑戦することが必要である。熊本大学は熊本県・熊本市と一体として「くまもと都市戦略会議」「熊本上海オフィス」の運営などの公共政策形成や社会活動を展開しており、とくに医療・教育・食糧・観光でアジアへの取組みを重視している。健康増進と疾病対策を先導するリーダーには、専門的な知識・技術に加えて、健康・医療と密接に関わる生活圏の理解が不可欠であり、産学官が一体になった HIGO プログラムで初めてそれは可能になる。行政及び地域・企業と連携することで、実践的な GSCS 教育が実施できる。県庁、市役所、上海オフィスや企業など、行政・産業界・海外へのインターンシップを導入し、我が国の産学官が連携して、地域、そしてアジア諸国に重点を置きながら、世界水準で国際社会に展開する中核的リーダーを育成する。

### 2. 最先端かつ国際最高水準の健康生命科学プログラム

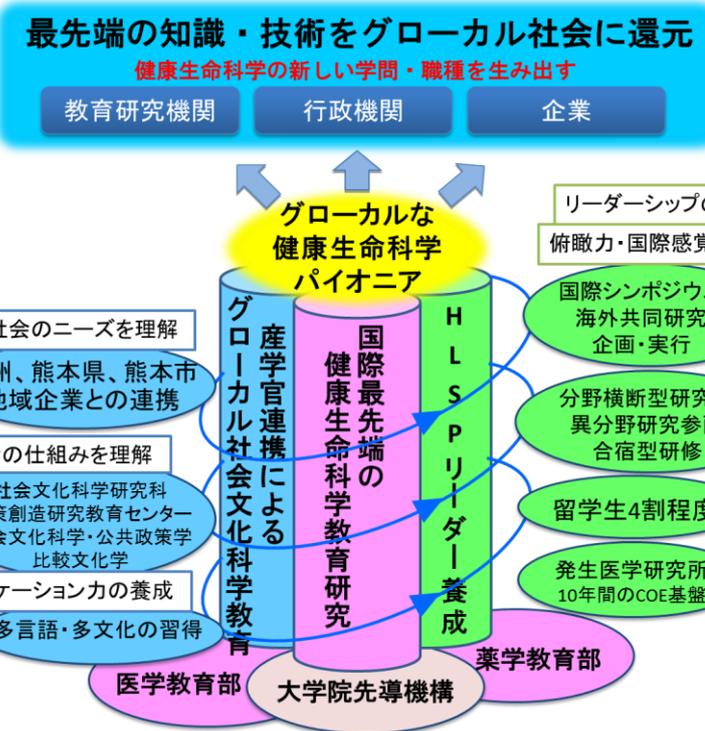
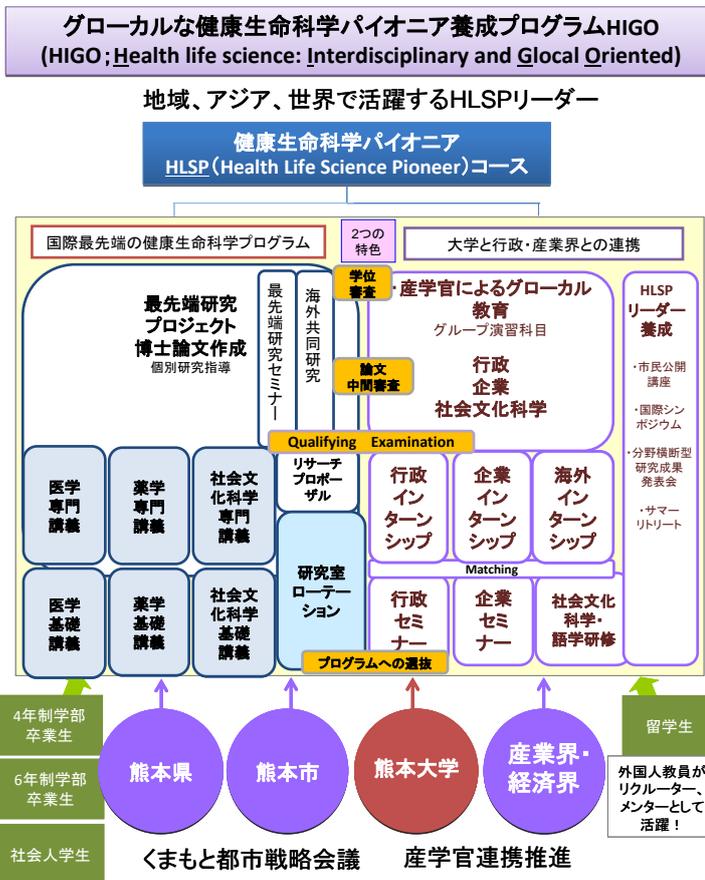
熊本大学大学院の医学教育部と薬学教育部は常に協働しており、その構成員である発生医学研究所及びエイズ学研究センターは2つのグローバル COE 拠点の中軸である。この基盤の上に、医学・薬学・生命科学及び GSCS で構成する HLSP コースを開設する。デュアル・メンター制及び研究室ローテーションによる多角的視野の養成、eラーニングシステムによる知識の効率的な習得を図る。国内外からポテンシャルのある大学院生を集結させて、彼らが切磋琢磨する学際的な大部屋教育を行ない、国際感覚と総合知識を涵養する。本学に「国際先端医学研究拠点施設」が平成 25 年度に建設され、生命資源研究・支援センター等の設備を使用し、研究支援を受けることができる。近年の外国人留学生の増加に伴い、上記 COE 拠点では授業やセミナーの完全英語化を達成している。本プログラムでは、外国人留学生の比率をさらに 4 割程度を目標にかかげ、日本に居ながら実践的な国際化を目指す。大学・社会が一体となって、地域と世界で実働するリーダー育成環境に努める。

### 【優位性】

熊本大学は全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。これまで、21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラム 3 件、組織的な大学院教育改革推進プログラム 2 件等を実施し、生命科学領域では「細胞系譜制御」、「エイズ感染防御」、「発生再生・代謝循環」において顕著な実績を挙げている。発生医学研究所は、全国共同利用・共同研究拠点事業の「発生医学の共同研究拠点」であり、エイズ学研究センターと生命資源研究・支援センターは各々の先端研究拠点である。さらに、国際化推進センター（平成 27 年 3 月から「グローバル教育カレッジ」へ改組）、eラーニング推進機構、イノベーション推進機構（平成 27 年 8 月から「くまもと地方産業創生センター」へ改組）等の技術経営コースによる企業インターンシップ、社会文化科学研究科プログラムなどが整っている。本プログラムは、本学の学長を中心とする強固なマネジメント体制のもと、熊本県・熊本市、産業界が共同する HIGO プログラムを社会的に新展開する新規性と優位性がある。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



## プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

### 1. 九州・アジアの産学官で活躍する健康生命科学のリーダー養成

本プログラムは、医学教育部と薬学教育部に所属する学生を対象とし、最先端かつ国際的な健康生命科学（医学・薬学）と社会文化科学を併せて履修する文理融合型カリキュラムであることを特徴とする。そのため、異文化共生、公共政策、技術マネジメント等について学ぶ社会文化科学の講義・セミナー・演習科目に加え、行政・企業・海外インターンシップを実施している。修了要件として、学位論文発表に加え、社会文化科学の研究成果発表を課し、専門性と社会的な分析力・実践力・俯瞰力を備えた健康生命科学パイオニアを育成する独自の体系的なカリキュラムを実現した。

### 2. 学生の活躍状況と修了者の多様なキャリアパス

#### (1) 産学官連携によるグローバル（グローバル+ローカル）教育と地域課題解決の取組

全学生 52 人のうち 52%がアジアを主とする 9 か国の留学生、37%が女性であることから、多様な学生による国際的な修学環境を整備できた。優秀な学生の獲得に成功していることは、表 1 に示した学生の活躍状況から判断できる。

【表 1】

業 績	数
日本学術振興会特別研究員	10
学生による起業	2
熊本大学医療活動表彰	1
熊本大学学業成績優秀者賞	5
熊本大学薬学教育部長賞	4
ベンチャーコンテストほか受賞	10
学会賞受賞	60
査読付き学術論文数	80

熊本県・熊本市・上天草市、熊本日日新聞社・同仁化学研究所、JICA、ネパール政府、世界銀行、WHO ほか、九州・アジア・世界の行政・企業・学術機関と連携して、健康生命科学分野のグローバルリーダーを養成する教育システムを構築できた。九州・アジアを中心として、行政・企業・海外インターンシップを実施し、グローバルな視点の涵養、地域の課題発見・解決能力の向上などを図っている。上天草市と連携して連続実施している地域医療に関する行政インターンシップでは、多職種連携で問題解決に取組み成果をあげている。学生の自主的な活動として、プログラム生が、天草地域の若手医療人材の確保

を目指して学生団体を立ち上げ、資金獲得やアイデアプランコンテスト開催などを果たした。また、熊本日日新聞社や国立水俣病総合研究センター等と連携し、水俣病を発端としたアジアの環境汚染問題について多角的視点から学ぶなど、グローバルという趣旨に合致した教育効果の高いインターンシップを展開した。さらに、平成 28 年 4 月の熊本地震を受け、熊本日日新聞社では災害報道、ネパール政府等では災害マネジメントを学ぶインターンシップをそれぞれ実施したほか、東北大学リーディングプログラム（G-Safety）と連携して市民公開講座を開催し、インターンシップ参加学生らが成果を発表した。企業セミナーを機に、プログラム生と教員が、熊本大学・熊本県・熊本市・メディア等と連携し、子宮頸がん検診啓発活動（K 発プロジェクト）を 3 年間継続して行っている。中高生など若い世代へのこの啓発活動は、医療貢献として「熊本大学医療活動表彰」を受けた。留学生は、災害を経験したことがない外国人に対し、熊本地震の体験を英語・母国語で発信する活動もしている。これらの活動はメディアにも取り上げられた。

#### (2) キャリア形成に資する企画提案型・公募型インターンシップ

プログラムが予め設定したインターンシップに加え、個々の学生が将来像に応じて自ら企画提案するインターンシップや公募型インターンシップの参加経費を選考のうえ支援している。延べ 9 人の学生が、国内外の大学・行政機関・企業にて、技術移転・地域医療行政などの OJT を実現し、延べ 10 人の学生が、海外大学、JICA 在外事務所、厚生労働省等のプログラムに採用され、参加した。

#### (3) 修了者の汎用力の向上

カリキュラムの学習目標を明示し、キャリアパスとの関連を可視化し、学生の自主的な学習を促進した。プログラム修了者の目標達成度や修了後に役立っている能力などを調査した結果、コミュニケーション力や企画立案実践実行力等が顕著に高いことを、修了者、指導教員、就職先担当者が共通して評価している。このことは、在学期間中に特に向上したコンピテンシーが対人基礎力（コミュニケーション力や企画立案実践実行力に相当する力）であるというジェネリックスキルテストによる客観的データによっても裏付けられている。

【表 2】

就職先	従来カリキュラム (%)	HIGO プログラム (%)
企業	16	30
行政機関	2	13
起業	0	4
医療系専門学校	0	4
医療機関	48	4
国内大学	22	9
海外大学	8	26
その他	4	9

#### (4) 修了者の多様なキャリアパス

カリキュラムを通じたキャリアパスの開拓・提示とともに、プログラム独自の就職セミナー開催と特任教員による個別キャリア指導の結果、本プログラムの修了者は従来の大学院生に比べてアカデミア・医療機関以外への就職が多く、企業や行政機関への就職率はそれぞれ約 2 倍、6 倍となっている。研究職以外の総合職、専門職、起業など、多様かつ独特なキャリアパスも実現できた（表 2）。

## プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

### 1. 大学院改革につながる教育研究組織の再編

HIGOプログラムは、発足時から学長直轄の「大学院先導機構」の一部門として位置づけられ、先進的な大学院教育として全学を挙げて推進してきた。本プログラムにおいて、医学・薬学・社会文化科学が統合した組織的な教育体制を整え、自己評価や外部評価に基づくプログラム改善のサイクルを実装する新たな大学院教育システムのプロトタイプを構築できた。医学教育部・薬学教育部はこれまでも有機的に連携し、10年間のCOEプログラム等で実績をあげてきたが、その基盤の上に社会文化科学研究科・政策創造研究教育センターを加えた本プログラムを通じて、専門分野の枠を超えた社会的な汎用性の育成や、専門分野の研究成果のみに限定されない新たな発想に基づく学位の質保証等についても、実質的な連携体制を構築でき、共通の人材育成理念の下に医学・薬学・社会文化科学関連の各部局が有機的に連携する教育プログラムの事例を提示することで、本学の大学院改革の推進に大きく寄与できた。さらに、本プログラムの特徴は、熊本県・熊本市・上天草市やネパール政府などの国内外の行政機関及び企業との連携による博士人材の育成である。この経験と実績を活かし、産学官連携により推進する事業である文部科学省地域イノベーション・エコシステム形成プログラム「有用植物×創薬システムインテグレーション拠点推進事業」の始動、「健康長寿代謝制御研究センター」の生命科学部内設置等、地域貢献に繋がる新たな学内教育研究組織が構築でき、機能している。

熊本大学は、第3期中期目標におけるビジョンとして、Global Thinking and Local Actionができる人材育成を掲げており、今後、「HIGOプログラムの全学展開と卓越大学院の構築」を通して大学院教育の機能強化を図る計画である。そこで、平成29年度には学長主導で「HIGOプログラム全学展開WG」を設置し、プログラムの優れた教育カリキュラムや大学院教育の質保証システムを全学的に共有する方策を継続して種々検討・実施してきた。HIGOプログラムの企業・行政セミナーも全学に開放し、他部局との共催によるセミナーも実施してきた。学位審査以外のQEとして、学習目標の明示とジェネリックスキルテストの全学的な実施を検討中である。HIGOプログラムの発展的継続と、これを起爆剤とした全学的大学院教育改革を一層加速するため、平成28年度に学部教育の質保証と改革を推進するために設置した組織「大学教育統括管理運営機構」内に、「大学院課程教育プログラム管理部門(仮称)」を新設し、これにHIGOプログラム及び本プログラム全学展開WGを移行し、全学の大学院改革を牽引・推進する役割を果たす。

### 2. 産学官連携により、地域社会問題を共に考える体制の構築

行政インターンシップ参加学生は、学生団体を立ち上げ、天草地域における若手医療従事者の確保を目指して活動している。また、産学官連携による「子宮頸がん検診啓発活動」では、中高生が子宮頸がんについて学ぶ講座・実験体験等を3年連続で実施した。毎年20人以上の参加があり、受講者のうち4人が熊本大学ほか熊本・九州の大学の生命科学関連の学部に入學し、本活動に参画している。このように、いずれの活動も、単なる連携・啓発の枠を超え、次世代の科学者・医療従事者の育成へと発展している。さらに、地域医療に関連する社会活動は、医療にとどまらず、過疎地域の包括的活性化の一助ともなり、九州・アジアの地域に様々な波及効果をもたらす。

### 3. プログラムの継続・定着・発展

本プログラムは、平成31年度以降も、大学独自資金により継続することが決まっており、上に述べたように、大学院先導機構から大学教育統括管理運営機構への組織再編を予定している。これにより、大学院教育の全学的改革が加速できる。一方、HIGOプログラム自体は、プログラムの実施に必要な経費の財源の確保と特任教員4人の雇用計画が確定している。留学生には月額10万円の修学支援、日本人学生には授業料の実質無料化を実施するほか、経済的に困窮度の高い日本人学生はHIGOプログラム大学院生研究員として雇用し、支援する。カリキュラムに係る旅費、独創的教育研究活動経費、研究成果発表費用等の支援は継続して実施する。さらに、学生の支援等の充実を企図し、熊本大学基金内に「HIGOプログラム教育研究支援事業」を特設した。国立水俣病総合研究センターに就職した本プログラム修了者は、今年度のインターンシップで講師を務める予定である。このように、修了者が九州・アジアの行政・産業界で活躍することで、本プログラムが継続し、新たなキャリアパス・人材の育成につながる正のスパイラルが形成できる。

